

第2期和束町地方創生総合戦略（案）に関する意見への対応について

No.	指摘箇所				意見内容	計画での対応	担当課
	頁	目標	方針	事業			
1	P112 P113 P115	1 1 2	2 3 1		宇治茶の主産地である和束町であるから茶業界から認められるのであって、和束茶で売り出しても販売できない。	宇治茶を否定して和束茶として売り出すのではなく、地域ブランドを推進していくものです。これまでも「和束茶」として普及・促進に取り組んできたことから、今後も「和束茶」として普及促進を図っていきたいと考えます。	地域力推進課
2	P112	1	1	3	茶業を廃業しなければならなくなった個人経営者が小規模的団体経営に移行できる体制を構築するとともに、稲作を合わせ年間を通じた雇用創出ができないか。（茶産業と稲作の併用）	基本的方向1において、年間を通じて働ける基盤整備をすることとしていますが、具体的事業について記載が無かったため、以下の事業を追加します。 <b>「3 地域雇用創出・人材確保支援事業」</b> <b>地域における雇用創出の拡大に向けて、農家や事業者が年間を通じて安定して人材が確保できるように、国、府、相楽東部地域と連携し、新たな体制の構築に向けて取り組む。」</b>	農村振興課
3	P112 P116	1 2	1 2		茶業を守ることが町を守ることにつながるため、茶農家の困りごとをきちんと聞き取り町ぐるみで取り組む必要がある。 ①茶農家を支える人材を安定して確保するため、町で求人を一括管理したりシルバー人材センターを作って地域内の労働力循環をする。 ②町外からの季節労働者向けにシェアハウスや空き家を活用できる仕組みをつくる。 ③高齢化と後継者の不在により放棄される茶園を作らないため、先輩茶農家制度を設け、新規就農者が茶農家でインターンとして作業に従事できるように、町が両者の紹介と相談支援をできないか。	①地域の雇用に対して安定的に人材を確保していく仕組みづくりとして、以下の事業を追加します。 <b>「3 地域雇用創出・人材確保支援事業」（再掲）</b> <b>地域における雇用創出の拡大に向けて、農家や事業者が年間を通じて安定して人材が確保できるように、国、府、相楽東部地域と連携し、新たな体制の構築に向けて取り組む。」</b> ②季節労働者や一時的な雇用者向けの居住スペースとして、和束町体験交流センター2階部分や各農家が確保している空き家の活用を図ります。 ③町が新規就農希望者と農家の間に入っての紹介については、体制面から困難ですが、新規就農者を受入可能な農家の一覧をHP等に公開する等、新規就農者と農家がつながる支援に取り組めます。	農村振興課 福祉課 地域力推進課
4	P112	1	3		町全体として安定的な雇用環境を創出していくため、地域の仕事を組み合わせる年間を通じた仕事を創出し、組合を作って職員を雇用し事業者に派遣する「特定地域づくり事業協同組合制度」について記載してはどうか。	ご提案の「特定地域づくり事業協同組合制度」の活用も検討しながら、町全体で安定した雇用が確保でき、新たな雇用創出につながる、以下の事業を追加します。 <b>「3 地域雇用創出・人材確保支援事業」（再掲）</b> <b>地域における雇用創出の拡大に向けて、農家や事業者が年間を通じて安定して人材が確保できるように、国、府、相楽東部地域と連携し、新たな体制の構築に向けて取り組む。」</b>	農村振興課

No.	指摘箇所				意見内容	計画での対応	担当課
	頁	目標	方針	事業			
5	P112	1	2		和束町では、生ごみを使った「和束堆肥」づくりを住民の協力を得て取り組んでいるので、戦略に挙げるべきではないか。	将来にわたり、子ども達に和束町の豊かな自然を残し、持続可能な社会を作るため、生ごみを使った「和束堆肥」づくりの継続は大変重要と考えており、「茶源郷和束にぎわい創出プロジェクト」の中にその事業が含まれています。	農村振興課
6	P112	1	3		雇用にあたっての具体的採用方法の計画は何があるのか。住所の移転を促進するため町外、府外の方を優先して採用するなどは考えているのか。いずれにしても、ハローワーク内で企業説明会や面接会が可能であり、一定条件もあるが助成金活用できる。	採用については、事業者ごとに方針が異なるため、町として特に優先の有無については考えていません。採用に当たっては、事業者がより効果的かつ有利に人材が確保できるよう、ハローワークの事業や制度を町内事業者に広く周知していきます。	農村振興課
7	P113 P115	1 2	4 1	1 9	京田辺市や南山城村のように企業との連携によって、観光客を呼びこむことが重要だが、受け入れ体制の整備を優先するべきだと考える。お茶の京都DMOにアドバイスを受けてはどうか。	犬打峠トンネル開通も見据えて実施する土地利用のあり方や新たなビジネスチャンスの調査研究を早期に進め、受け入れ体制の整備を最優先で取り組みます。 また、京都府と連携し3人のDMOアドバイザーの協力を得ながら、事業が円滑かつ効果的に展開できるように取り組みます。	総務課 地域力推進課
8	P113	1	4		トンネル開通に伴い宇治木屋線のみがビジネスチャンスを考える場所ではない。湯船地区にも作っていくべきであり、30万人の受け皿は町全体で考えていくべきもの。現場の方の様々な受け皿づくりの環境整備等を進めていくべき	犬打峠トンネルの開通による効果を和束町全体として受け入れ可能な環境を整備するため、次のとおり修正します。 P113 基本的方向4 (仮称)犬打峠トンネル開通に伴うビジネスチャンスの調査研究 「(仮称)犬打峠トンネル開通による流通・観光・商業サービス等の需要発生を、 <b>町内全域で受け入れ可能とする環境を整備するため、土地利用のあり方や新たなビジネスチャンスを調査研究し、地元企業の活動促進や町の魅力を活かした企業誘致を進めるなどにより、新たな事業創出に取り組みます。</b> 」	全課
9	P113	1	4		新規企業誘致が2件とあるが、用地の確保や候補地はあるのか。新たな企業を誘致することで、既存事業者への良い影響もあれば、悪い影響もあるのではないか。	現在のところ企業誘致のための用地や候補地は確保できていないため、土地利用のあり方も含めて、和束町のポテンシャルを活かせる事業を創出することとしています。 また、どのような企業を誘致していくかについては、既存の事業者や住民等の意見を聞く機会も設けた上で、和束町が持つ地域特性を最大限活かせる企業誘致を努めていきます。(P113記載済)	農村振興課
10	P113	1	4	1	和束町の豊かな自然、茶畑、茶文化は住民、観光客にとって大変魅力的な要素である。また、犬打峠トンネル開通後の導線を分析することで、次の展開にも活かせるのではないか。	犬打峠トンネル開通後の効果を和束町全体へと広げていくため、各地域のポテンシャルを活かした事業展開ができるように取組みます。	全課
11	P115	2	1		和束街道を通る奈良交通バスから美しい和束川が常に見えるように、できる箇所から改良してはどうか。	お茶の京都の取組と連携した観光振興をしていく中で、和束町の景観を楽しんでもらえるような取組を検討します。	建設事業課

No.	指摘箇所				意見内容	計画での対応	担当課
	頁	目標	方針	事業			
12	P115	2	1	14	和束町民向けに和束の史跡仏閣などの資料パンフを配布し、来訪者への案内ができるようにすれば、交流が広がるのではないか。	観光ボランティアの育成をする中で、町や教育委員会が作成する資料を活用し、町外からの来訪者との交流を広げていきます。また、お茶の京都DMOや相楽東部未来づくりセンターと連携して、観光ボランティアガイドの人材養成を進めてまいります。	地域力推進課 生涯教育課
13	P115	2	1	12	「産業」として観光を捉え、どのように都市農村交流を推進し、経済効果を起こすかについて言及が必要ではないか。交流人口より都市農村交流とした方が、移住・定住の関係から良いのではないか。	都市住民との交流を図る事業をNo.12で実施することとしており、その中で和束町が持つ魅力を知ってもらい、移住へと繋げていきます。	地域力推進課
14	P115	2	1	12 13	移住・定住の促進を図るためには、和束町民と移住者それぞれが理解を深め、文化の融合を図っていく必要がある。	都市住民の週末居住や農村体験、農泊などを促進していく中で、交流する機会を増やし、それぞれの文化の理解が深まるよう内容の充実に取り組みます。	地域力推進課
15	P115	2	1		和束町活性化センターを軸にした「教育旅行」の推進は、移住・定住準備をつくる上で重要である。具体的に数値目標を示してはどうか。	修学旅行生等で和束町を訪問することにより、その認知が高まるとともに、将来の移住者になる可能性が高くなるため、重要業績指標（KPI）を設定します。 <b>基準値（5年累計）（2019年）：1,912人</b> <b>目標値（2025年）：2,300人</b>	地域力推進課
16	P116	2	2	2	今あるサテライトオフィスが、なぜあまり利用されないのかなどの原因究明を含めて、企業誘致の環境を整備していくことが必要である。	学研都市等の企業を訪問し、毎年企業誘致に向けて働きかけをしています。遠方である和束町まで訪問していただけない状況です。そのため令和3年6月補正で町外の企業への宿泊費等に対する助成制度（おためしテレワーク推進補助制度）設け、サテライトオフィスの利用促進を図っています。（P116で計画済）	地域力推進課 農村振興課
17	P116	2	2	1	空き家所有者をサポートする仕組みが抜けている。サポートを地域力推進課と進めているが、仕組みを抜本的変えていかないと空き家問題は解決しない。取り組みの効果で移住希望が増えてきているが、受け皿がない状況である。	空家所有者をサポートし、安心して移住希望者に空家を貸出し、また売買できる仕組みづくりを進めるため、戦略の中に事業を追加します。 P116 基本的方向2 移住・定住の促進 <b>【空家活用促進事業】</b> <b>京都府宅地建物取引業協会と提携した空家活用の促進や和束町活性化センターと連携した空き家の掘り起こしに取り組みとともに、空家の取引に専門人材が介入する空家対策プラットフォームの構築等に向けて取り組みを進めます。</b>	地域力推進課
18	P116	2	2	1	安心して空家所有者が物件を出して、移住希望者に貸し出せるように、和束町が保証するシステム構築ができないか。	<b>【空家活用促進事業】</b> <b>京都府宅地建物取引業協会と提携した空家活用の促進や和束町活性化センターと連携した空き家の掘り起こしに取り組みとともに、空家の取引に専門人材が介入する空家対策プラットフォームの構築等に向けて取り組みを進めます。</b>	地域力推進課

No.	指摘箇所				意見内容	計画での対応	担当課
	頁	目標	方針	事業			
19	P116	2	2	1	<p>交流人口を増やしていくために空き家を掘り起こし、所有者と移住希望者がともに安心して取引ができる仕組みづくりが必要です。</p> <p>①空き家の所有者が安心して移住希望者と取引ができるように、町で空き家を借り上げて、移住希望者に賃貸するサブリース制度はできないか。</p> <p>②住宅の取引に精通した関係業界団体を集めたプラットフォームを町で組織化し、所有者が安心して空き家を提供できる環境を作れないか。</p>	<p>①ご提案のあったサブリース制度については、ご意見を踏まえて創設する「空き家活用促進事業」の中で検討していきます。</p> <p>②プラットフォームの構築等についても、「空き家活用促進事業」の実施する中で仕組みを検討していきます。</p> <p><b>【空き家活用促進事業】再掲</b>  <b>京都府宅地建物取引業協会と提携した空家活用の促進や和束町活性化センターと連携した空き家の掘り起こしに取り組むとともに、空家の取引に専門人材が介入する空家対策プラットフォームの構築等に向けて取り組みを進める。</b></p>	地域力推進課
20	P116	2	2		<p>「移住・定住支援センター（仮称）」の設置等、UIターン希望者への一体的な取組施策の展開が必要ではないか。綾部市のような移住・定住制度の確立が必要ではないか。</p>	<p>まずは、ご意見を踏まえて実施する「空き家活用促進事業」を進めていながら、その効果検証も踏まえながら、事業に特化するセンターの設置についても検討をしていきます。</p> <p><b>【空き家活用促進事業】再掲</b>  <b>京都府宅地建物取引業協会と提携した空家活用の促進や和束町活性化センターと連携した空き家の掘り起こしに取り組むとともに、空家の取引に専門人材が介入する空家対策プラットフォームの構築等に向けて取り組みを進める。</b></p>	地域力推進課
21	P116	2	2	1	<p>具体的な事業、KGIやKPIを示した事は大変有益であり、今後PDCAを回して継続することが重要である。</p> <p>移住・定住の促進に向けて、空き家の把握状況や管理状況等のデータベースの活用が重要である。</p>	<p>空き家所有者と移住希望者が、それぞれのニーズを踏まえて円滑な取引ができるように、空き家の活用促進をしていく中で既存のデータベースの充実を図ります。</p>	地域力推進課
22	P116	2	2	1	<p>和束町の総合戦略の位置づけについて、明確に「移住・定住」に向けた取り組みであると示すべきではないか。移住したい町になれば、現在の住民にとっても住み続けたい町になるのではないか。</p>	<p>「移住促進住宅整備事業補助金」や「わくわく地方生活実現移住支援金」により移住促進を図るとともに、子育て施策や基幹産業を軸とした働く場づくりを創出しながら、定住促進に努めます。</p>	地域力推進課
23	P118	3	1		<p>コロナウイルスには関係なく、ふれあい交流を図れていないのが現状。実態を掴んだ事業を入れ込むべき。</p>	<p>小学生や中学生と高齢者との世代間交流事業の一層の充実を図り、世代を越えたふれあいの機会の提供に取り組めます。</p>	福祉課
24	P118	3	1	8	<p>若い人達がもっと定住しないと出生率1.8は厳しい現状を踏まえて事業に取り組んでほしい。</p>	<p>子育て・三世同居等応援住宅総合支援事業（「和束町結婚新生活支援事業費補助金」並びに「和束町子育て世帯住宅リフォーム等支援事業補助金」）を創設し、子育て対策を強化します。</p>	地域力推進課

No.	指摘箇所				意見内容	計画での対応	担当課
	頁	目標	方針	事業			
25	P118	3	1	8	育児支援として「出産祝金」の給付を検討してはどうか。	子育てにやさしいまちづくりを推進していく上で、出産祝い品だけでなく、新たに出産や育児を応援するための給付事業を、次のとおり追加します。 (今年度、新生児応援特別給付金を支給しています。) <b>「8. 子育て応援給付金事業」</b> <b>和東町に定住し豊かな自然の中で、安心して子どもを産み、のびのびと育むことができるように、出産後も定住が確認できる子育て世帯を対象に、生活応援給付金を給付する。</b>	福祉課
26	P119	3	2		教育委員会が小学校や中学校と取り組んでいることとの整合性は図れているのか。また、計画書の事業は実現可能なものなのか。	ふるさとを愛し、誇りに思う児童生徒の育成のため、小中学校教員で「和東町ふるさと教育研究会」(H12設立)を組織し、小中9年間「ふるさと学習」をとおして、児童生徒がふるさとをより理解する教育に取り組んでいます。また、計画に記載している事業はいずれも実施予定であり、例えば、『心を潤すお茶の時間』は小・中学校とともに教育課程の中で月2回、実施する計画となっています。	学校教育課
27	P119	3	2		大事なこととして、教育そのものについては、学校だけでなく、地域の大人たちが教育にかかわっていくことを考えていくこと。地域全体で子どもを育てていくことをやっていく必要がある。	人がつながる活動の場としての「地域学校協働活動」と「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」を一体的に推進し、社会総がかりで次代を担う子どもをはぐくむとともに、社会に開かれた教育課程を実現し、地域とともにある学校を目指していきます。	学校教育課
28	P119	3	2		検定の支援等は小学校からだけでなく、保育園からやっていることをカッコ書きでも記載しておくべき。	小学校からの本格的な英語教育に備え、和東保育園では園児を対象に英会話事業を実施しているため、戦略への記載を、次のとおり記載します。 (基本的方向2の文書に一部追加) <b>「地域の自然や人材、組織、小規模校の特性等を活かした魅力ある教育活動の展開、ふるさと学習、小中学校英語指導の充実など、幼小中連携の一層の推進に取り組みます。(保育園でも小学校からの英語学習に子ども達が速やかに適応できるように、英会話講師を雇用して日常から英語に親しむ環境づくりに取り組めます。)」</b>	保育園
29	P118	3	1	4	保育園から、英語に今まで以上に英語に触れて、身近に感じる素地を培い、小中につなげていく取組が重要である。	保育園では英会話講師を雇用し、日常的に英語に触れる機会を作っています。今後、小中学校から始まる英語教育に自然に適応できるよう、学校とも連携しながら進めていきます。	保育園
30	P119	3	2		教育を一層推進していくため、教育委員会との連携をより密にしながら進めていくことが肝要である。	現在も保育園と学校では、就学前からの学校教諭の保育園訪問や園児と小学生の交流、学校行事への園児の参加などに取り組んでいます。今後、新たな機会を見つけて連携が進むよう取組みます。	教育委員会

No.	指摘箇所				意見内容	計画での対応	担当課
	頁	目標	方針	事業			
31	P119	3	2		英語教育が充実しているという町のPRをするために、例えば「中学校卒業時点で全員がTOEIC700点以上目指す」など、明確な教育目標や指針を示してはどうか。社会のグローバル化がますます進む中で、基幹産業である茶業をPRしていくのにも有益である。	毎年、全生徒が実力に応じたレベルの英語検定を受験できるように、受験料を全額公費負担するとともに、3級（中学卒業程度）以上の合格率の目標値を設定することで、英語教育を町のPRとなるよう取り組みます。また、ALT（外国語指導助手）が小中学校を巡回し、生徒にネイティブの発音に触れる機会や、和東ならではの茶の時間の授業を設ける等、グローバル化が進む中で生徒達が社会に出た時に、お茶を通して英語でコミュニケーションがとれ、和東町の茶業のPRにもつながる教育に取り組んでいきます。	学校教育課
32	P119	3	2		移住・定住施策にとって教育の充実が必要不可欠であるが、現案では魅力に欠けるため、生涯学習の観点から思い切った見直しが必要ではないか。例えば、英語でコミュニケーションが取れる、簡単なビジネスモデルが作れる子どもを育てるなど、他地域との差別化を図ることが必要ではないか。	小規模校の特性を活かした教育活動を展開し、特色ある学校づくり、子どもや保護者にとって”魅力ある”学校づくりを進めるとともに、相楽東部広域連合管内学校と連携し、他地域では無い、定例的な交流学習や合同学習、学校行事の共催など管内学校間連携を推進しているところであり、今後その教育内容の充実を図っていくのにあたり、ご意見を参考にさせていただきます。	生涯教育課
33	P121	4	1	2	豊かな自然環境を残しつつ、通勤・通学・買い物物の利便性を高めていくことで、定住や交流人口の増加につながるものとする。交通インフラの拡充と美しい自然環境が共存する事業展開を望む。	アンケートからも日常生活における通学、通勤、買い物等の利便性が悪い事が課題に挙げられていることから、既存の公共交通だけではなく、新たな公共交通のあり方を検討していきます。	全課
34	P121	4	1	2	和東町民全体で地域交通を担うという考えのもと、自家用有償旅客運送の仕組みを作ってはどうか。社会福祉協議会やシルバー人材センターと連携すれば地域内の雇用創出にもつながる。	新たな公共交通のあり方を検討していく中で、町民にとって最も有益な地域交通について検討します。	総務課 福祉課
35	P121	4	1	1	犬打峠トンネル開通に伴うバス路線の検討に、まずはお茶の京都DMOと連携して、観光ループバスの運行を検討してはどうか。	公共交通の充実に向けて、お茶の京都DMOと連携し、観光周遊カーシェアリング事業の浸透拡大とともに、犬打峠トンネル開通後に新たな観光周遊バスの運行実現に向けて検討します。	地域力推進課
36	P121	4	2	1	住民が障がい者の程度に応じて相談や支援をするなど、和東町を福祉の町にして欲しい。	町民誰もが気軽に集い、相談ができ、お互いにふれあえる場として整備する（仮称）和東町総合保健福祉施設を拠点として、総合的な福祉サービスの向上を図れるよう、ハード整備だけでなくソフト面も充実させ、和東町における福祉の好循環に取り組みます。	福祉課
37	P122	4	3		和東町全体の茶畑への山道等の整備状況を各地域ごとに把握し、中長期的に各地域と連携し、安全かつ利便性を確保することが必要である。	総合戦略では記載はありませんが、和東町第5次総合計画において、茶畑への山道等だけではなく、町内全体の森林保育に対する支援の充実や治山・治水事業を推進することとしています。	農村振興課

No.	指摘箇所				意見内容	計画での対応	担当課
	頁	目標	方針	事業			
38	P122	4	3	1	地域コミュニティの中にいる方で組織されている消防団や自主防災組織の充実強化について、重要業績指標に具体的な数値目標を持つべきではないか。	災害時の安全な避難に向けて、避難の実効性を高めていくため、計画期間内に全ての地域で実施できるよう、重要業績指標（KPI）を追加します。 <b>避難訓練実施地域（累計） 14地域</b> <b>※全ての消防団及び自主防災組織</b>	総務課
39	P122	4	3		府道宇治木屋線犬打峠トンネル開通に伴い、現道及び鷲峰山林道等の交通量が減少し、建設廃材等の不法投棄等が増えることが懸念されるため、事前に対策を考えてはどうか。	不法投棄防止看板の設置や広報紙への掲載等により、意識啓発による未然防止を実施するとともに巡回パトロールを行い、対策の強化に努めます。	農村振興課